

現在の都市環境において、こどもたちの遊び場は、効率性や利益を優先とした開発により確実に失われている。車社会により、一歩外に出ると危険な状態であり、通学路も安心して通行することはできない。

子ども視点から見て、現代のまちは豊かといえるのだろうか。

子どもにとって豊かな生活空間をつくることは、万人にとって快適なまちを創造することにつながるのではないか。

- ・ 述床面積:7862㎡
 - ・ 1F床面積:3321㎡
 - ・ 2F床面積:2706㎡
 - ・ 3F床面積:1834㎡
 - ・ 建築面積:3500㎡
- 店舗
 - ・ パン屋
 - ・ 花屋
 - ・ 本屋
 - ・ 八百屋
 - ・ カフェ
- その他
 - ・ 普通教室
 - ・ 音楽教室
 - ・ 面談・将棋室
 - ・ 児童館・託児所

建物高さ:5600~8400m



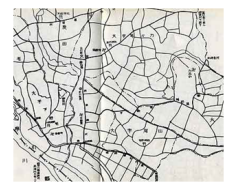
目次

1. 表紙
2. 敷地図
3. 平面図1F
4. 平面図2F
5. 平面図3F
6. プロセス+コンセプト
7. 配置図
8. 立面図
9. 立面図
10. 断面図
11. 断面図



世田谷区 尾山台
 用途地域:第一種低層住居専用地域
 建蔽率:50%
 容積率:100%
 高度利用地区
 街区面積:8206㎡

一般的な閑静な住宅街である。大正14年頃から始まった「玉川全門新地区画整理」により、ほぼ正方形に近い街区が形成された。土地の起伏はほとんどない。
 近辺には小学校が2校、中学校が1校、保育園が2園存在する。しかし北方面には東急大井町線が、南方面には環状八号線が横断しており、2つの交通網に挟まれている状態である。子供の通行が多い場所としては、条件が悪く危険な地域といえるため、今回この敷地を選んだ。



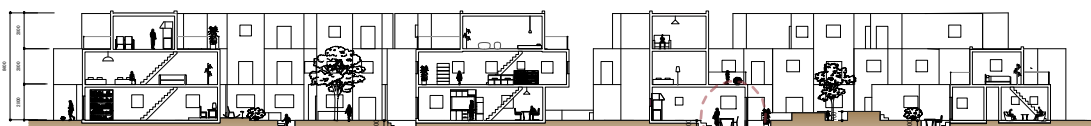


1F 平面図 1:150

中村 豊 No.2



A-A' 断面図 1:150



D-D' 断面図 1:150

中村 豊 No.10

⑦ 凹凸をつくることで、それぞれの住戸への採光を確保し、多くの外部空間を創出し、中庭側や道路側、街全体に表情を持たせることができる。また、中庭空間は、広すぎても中庭として豊かにならない。

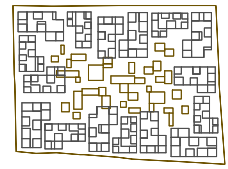


エスキース模型

⑧ 出来上がったユニットを中庭を囲んで配置していく。



大きな一つの中庭をつくる。



配置図

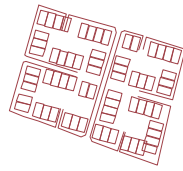


変更後のプロセス

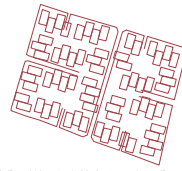
⑨ 中庭を細分化し、全ての世帯が中庭に面するようにする

一つの大の中庭を囲むと、中庭に面さない世帯が存在してしまう。また、中庭空間は、広すぎても中庭として豊かにならない。

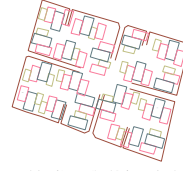
よって、全ての世帯が中庭に面し、中庭を細分化させることを考えた。



既存の道路を残して、中庭を4つに細分化する。



一世帯ずつ、採光と通風を確保するため、交互にずらして配置する。

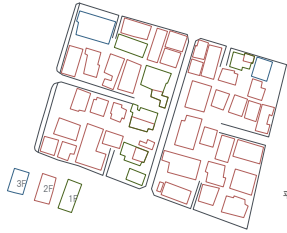


3つの大きさのバリエーションの住戸を決定し、それらを2-3世帯ずつ壁を共有させて配置する。



4つの中庭の中央に、中庭に囲まれた中庭が生まれず。

⑩ 住戸の大きさを決める。



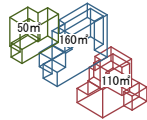
1 F 延べ床面積合計3802㎡
2 F 3359㎡
3 F 272㎡
3802+3359+272=7433

合計延べ床面積 7433㎡
総住棟数 48住棟
(内集住5棟) 48棟-5棟=43棟
9+4+6+2+4=25戸

世帯数 43+25=68
7433÷68=109㎡
世帯平均109㎡

平均面積を中間数値として、3種類の大きさの住戸をつくる。

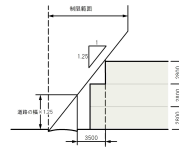
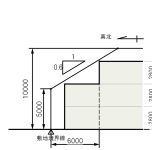
- ・50㎡ (1人から2人用) ... 23世帯
- ・110㎡ (3人から4人用) ... 25世帯
- ・160㎡ (5人から6人用) ... 18世帯
- 計 66世帯



⑪ 中庭側、道路側に表情を持たせるため、また採光を確保するため、住棟に凹凸をつくる。

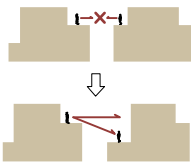
削る方法

斜線制限にかかっている部分を削る

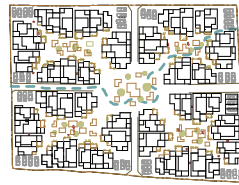


中庭に対しての圧迫感を抑えるため、また採光を得やすくするため、3階部分はそれぞれの世帯ごとに間隔を空ける。

ベランダが直線隣り合わないよう、高さをずらす。



⑫ 模型により採光や斜線制限、ベランダの位置を考慮して削る位置を決め手早い。

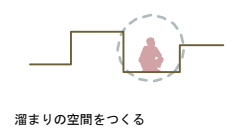


最終形配置図

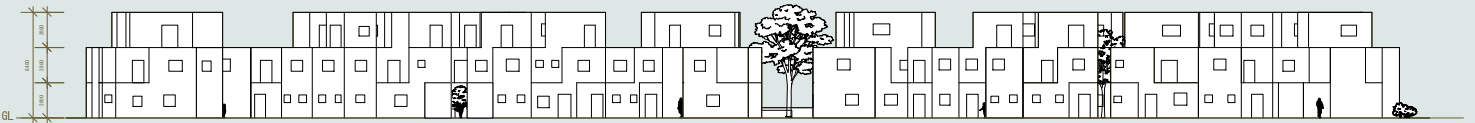
半開放的な中庭からまちにコミュニティが溢れ出す

従来の集合住宅などの共用中庭は、均質な建物の表層であり、中庭も均質な空間であるため、利用されにくい。

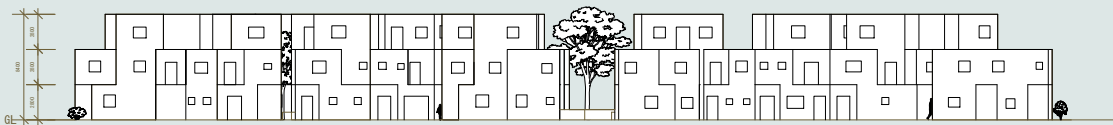
しかしこの様に、住宅にも地面にも凹凸をつくることで、まちに住む人びとの溜まるきっかけが生まれ、それはコミュニケーションが起るきっかけとなる可能性も秘めている。このような空間は、子どもの快遊さだけでなく、都市空間として豊かになるのではないかと。



溜まりの空間をつくる



北立面図 1: 150



東立面図 1: 150



凹凸により、道路側にも表情が現われる。

半開放的な中庭空間は、箱を取り込み、また街にあふれ出す。



住棟の凹凸は中庭の地面にも運動していく

住棟の凹凸により、中庭への採光は多く得ることができる